

「地域研究」プログラム

社会科学の手法の総合によって「地域」の視点からグローバルな課題を掘り下げる



「地域研究」プログラムは

- 世界各地域の歴史および現代社会に関する深い学習を積み、
- 世界各地域と日本との関わりをめぐる諸問題にとりくむための、地域に根ざした専門的な知識を持った職業人を養成すること

を目的とします

「地域研究」プログラムの地域研究とは

- 「市場化」, 「貧困」, 「環境」といったグローバルであるが, 地域に根差した問題として現れている現代的な諸課題について
- 経済学を中心とした社会諸科学の考え方と手法を用いつつ, しかし, あくまで具体的な「地域」
たとえば東アジア, 南アジア, イスラム世界などの現実に即して, 事態を掘り下げて分析しようという実践的な学問です。

カリキュラム 方法論とイシュー

- 「地域研究」プログラムでは、

(1) **地域研究の方法論** (メソドロジー) に関する講義

(2) 今日のかつグローバルな**課題** (イシュー) を考察する講義

の両者を軸としたカリキュラムを提示します。

まとめると

地域

1. 社会変動の比較文明史
2. 市場化・体制移行および民主化
3. 貧困・開発・環境

地域研究の方法論

定性的方法
定量的方法
歴史的方法

経済学を中心とする 社会科学の基礎

学部コア科目
開発経済学, 環境経済学
資源経済論など

科目編成を示すと

【必修科目】

演習、地域研究方法論(2 単位)、経済学研究科コア科目(4 単位以上)、
インディペンデント・スタディ、ワークショップ

【選択必修の研究科授業科目】 4 単位以上

地域経済論 A、地域経済論 B、地域経済論 C、現代経済史、文明史、
経済史特殊問題、環境経済論 I、国際経済開発論 I、資源経済論 I、
東アジア経済特論、南アジア経済特論、西アジア経済特論、日本経
済史、東洋経済史、西洋経済史、国際経済開発論 II、環境経済論 II

修了後の進路としては

- 開発援助や海外との人的交流に関わる機関
- ジャーナリズム, シンクタンク
- 海外業務に重点を置く企業

などが想定されています。